

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2070400359		
法人名	社会福祉法人 共立福祉会		
事業所名	グループホーム高尾		
所在地	長野県岡谷市川岸上4-3-4		
自己評価作成日	平成21年10月5日	評価結果市町村受理日	平成22年2月24日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2070400359&amp;SCD=320">http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2070400359&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A		
訪問調査日	平成21年11月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

9名の利用者について、センター方式を使って、少しでも認知症の方々のその人らしさを勉強しています。全部のシートはまだ使っていませんが、利用者中心ということを考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者が変わり、計画作成担当者が11月より新たに勤務するなど、事業所が新たな動きを始めようとしている時期であり、アセスメントを始めとする介護計画作りにセンター方式を取り入れた。自己評価から事業所の課題を見つけるなど、より良い事業所作り、利用者が安心して暮らしていける場所づくりのための真摯で力強い職員の前向きな姿勢が感じられた。月2回の職員会議、そこで話し合われたことを持ち上げられる管理者のみ出席する主任会議が月2回開かれ、管理者と職員のコミュニケーションを良くする体制が出来上がり、相互に意見を言い易い関係になっていった。隣接するケアハウスとの有機的協力関係も有効に活用している。事業所周辺の整備、機器や設備の改良等克服すべき課題もあるが、運営推進会議や行政の協力支援を得ながら、認知症の中核症状である不安と闘いながら日々を過ごしている利用者が「ここで、いつまでも暮らしたい」と言えるよう支援していられることを望みます。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員はしっかりと共有していません。	法人の理念を事業所の理念とし、利用者の介護、職員の資質向上、地域との関係性など事業所の目指す目標を5項目にまとめ、何時でも見られるよう壁に掲げてある。職員には採用時や職員会議等で共有化を図っているが浸透しきっていない。	地域密着型であり、認知症の介護を主としていることを前面に出した事業所独自の理念を全職員で作り上げ、共有化を図るとともに、理念が具体的ケアに反映されるよう取り組まれることを期待します。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	交流はあまり無い。 敬老会等には参加した。	事業所は川岸地区の最高地の坂の多い場所に位置し、日常的に地域の方と触れ合うことが困難であるが、近くの畑に来た人と話したり、野菜のおすそ分けを頂いたり、地域の夏祭りや敬老会に参加、中学生の職場体験の受け入れ、事業所行事への招待など積極的に地域と繋がろうと努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々と勉強会はしました。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	まだ不十分。	会議は年6回開催し、委員に介護相談員、診療所の看護師長が加わるなど幅広い立場からの意見が聞ける構成になっていた。行政からの報告、事業所の課題や実情、地域の協力や知恵を借りるなどが議題として提案され、双方向的な会議となっている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議等では事業所の実情を話しているがあまり密とはいえない。	運営推進会議が併設施設のケアハウスで行われ、行政には事業所の実情を話しているが、認知症ケアの現場の把握や課題解決に向けて、一緒に取り組むまでの協力関係には至っていない。	運営推進会議を事業所で開催する機会も設けて、事業所のありのままの姿、認知症ケアの難しさや大切さを肌で感じてもらうなど、行政が事業所に目を向けるよう取り組まれることを望みます。さらに事業所として出来ること、行政だから出来ることを精査して、良好な協力関係を築かれることを期待します。

外部評価結果(グループホーム高尾)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はしていないが、ベルは戸についている。	拘束しないケアについては運営規程や契約書にも明記され、職員の理解は出来ている。玄関への施錠はなく、万が一の配慮のためドアには鈴を設置しているが、見守りや不在となる場合の職員同士の声の掛け合いなど、職員の連携を強化しながら抑圧感のない暮らしの支援に努めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回ぐらいは防止関連法について学ぶように心がけている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	協力病院である共立病院の勉強会等には、管理者・職員は出席するようにしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解していただくように、説明はしています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との意見交換および反映は不十分です。	毎月、事業所での様子などを文書や電話で報告し、面会時にはご家族の思いや意見を聞くよう心掛け、苦情箱も設置し、ご家族の苦情等を受け入れるよう配慮している。ご家族が気軽に意見を言えて、事業所からもゆっくりと利用者のことが話せる家族会を作ろうとしていることを伺った。	利用者やご家族の意見とはサービスを受ける立場の思いであり、サービスを提供する事業所との整合性は必須である。利用者やご家族が気軽に意見を言えて、その意見に速やかに対応するといった信頼関係を早期に構築(家族会を含む)されることを期待します。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で意見を出してもらっている。	管理者と職員とのコミュニケーションは良く取れている。職員会議等では意見も出ており、悩みの相談は管理者にしたり、勤務表も職員の希望を充分に取り入れるなど良好な関係を作っている。	

外部評価結果(グループホーム高尾)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<b>就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境、条件の整備に努めていると思う。		
13		<b>職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等には参加させてもらっている。		
14		<b>同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	不十分である。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関係づくりに努めている。		
16		<b>初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	関係づくりに努めている。		
17		<b>初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	対応に努めている。		

外部評価結果(グループホーム高尾)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	支援に努めている。	知人や友人は入居時には良く来られるが、次第に遠のくのが現状である。広域からの利用であるので、馴染みの人や場所との関係継続は難しいが、手紙が来たり、携帯電話で話したり、ご家族の付き添いで墓参りに行ったりと、これまでの関係が途切れないよう努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	支え合えるような支援に努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらからは積極的にはしていないが、相手側が何か言ってきた場合は対応するように努めている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望・意向の把握に努めている。	センター方式を取り入れ、生活歴、願いや思いを把握し、日々の言葉や様子から「今」の思いを読み取り、その人らしく、持てる力を発揮しながら暮らしていけるよう支援している。月に2回、介護相談員が来訪し、利用者の思いを受け止めて、事業所へのつなぎ役を果たしている。	

外部評価結果(グループホーム高尾)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族との意見交換は必要であると認識はしているが、いまだ出来ていないのが実情なので、それに即した介護計画は作れていない。	ご家族との話し合いが不十分のままの介護計画であったが、今後はセンター方式を活用して課題分析を行うことになっているので期待が持てた。介護計画への職員の意見の反映や共有化は出来ており、カンファレンスからモニタリングまで良くできていた。評価の段階が不十分であったので今後の努力を望みます。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入しているが、不十分である。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組み始めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	不十分である。		

外部評価結果(グループホーム高尾)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している。	利用者のご家族の同意と納得を頂き、事業所の協力医療機関の医師をかかりつけ医としている。月2回の職員付き添いによる受診があり、訪問診療も月2回受けている。協力医療機関とは連携のための十分な話し合いが行われ、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	努力している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	なし。	文書化された指針はない。医療対応が多い時は入院して頂くこともあるが、基本的対応として協力医療機関の医師等の協力を得られるので、事業所で終末期の対応をする姿勢である。現時点では、利用者やご家族との十分な話し合いは出来ていない。	重度化や終末期の対応については、ご家族等だけでなく、今後入居を希望する方にとっても大きな関心事である。事業所として出来ること、出来ないこと、医師や看護師の協力、ご家族の協力、職員の理解などを精査し、事業所の基本方針を文書化し、ご家族等と十分に話し合われることを期待します。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	身につけていない。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	築いていない。	年3回昼・夜想定訓練を行い、地域からの協力もあり、隣接する併設施設との連携も図られている。さらに、近くに職員が居住し、自動通報装置などの防災設備も整い(スプリンクラーは22年度に設置予定)、災害への備えは充分である。全職員が実践対応出来るために、イメージトレーニングを頻度よく行う事を望みます。	

外部評価結果(グループホーム高尾)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	努力している。	誇りやプライバシーを損ねない言動については、管理者から、あるいは職員同士で注意し合っている。利用者や職員同士の呼び方についても名字で呼ぶよう統一した。基本情報等の個人の記録は鍵の掛かる保管庫に収納されていたが、日々記録する書類の保管が不十分であったので配慮されることを望みます。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まだ充分でない。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	努力している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している。 好きな化粧品や洋服を選んでもらう。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒にやるように努力している。	調理から食器拭き、おやつ作り、食材の買い物と利用者の出来る範囲でほとんど職員と一緒にやっている。地域の方から頂いた旬の物を活用したり、口腔ケアに注意したりして食事が楽しくなるよう支援している。献立は職員が作成しているが、時には栄養士から栄養バランスのチェックをしてもらうことを望みます。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	努めている。		

外部評価結果(グループホーム高尾)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアに注意している。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	努力している。	自立者3名、夜間のみおむつの方2名、他は誘導や声掛けの対応をしている。おむつの方も排泄パターンに沿った声掛けや誘導を行いながらおむつはずしの工夫をしている。声掛けをしながら排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	努力している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々にそった支援には不十分である。	週2回、午前9時から午後2時までの間に、2槽ある個浴で全員が入浴し、床ずれのある利用者は週3～4回利用している。夏期はシャワー浴も取り入れて入浴日を増やしている。重度化する傾向にあるので浴槽への手すりの設置など安全対策への配慮を望みます。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	努力している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	不十分である。		

外部評価結果(グループホーム高尾)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	不十分である。	玄関先が坂であったり、事業所周辺に十分な広さがなかったりして、立地条件的に日常的な散歩や戸外に出ることが難しいが、買い物やつつじ観賞、紅葉狩り、隣接施設への行事等の参加など出来るだけ戸外に出て、気分転換や五感の刺激を得られるよう支援している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	努力している。	居間・食堂・台所が一体のフロアーとなり、調理の音や匂いが感じられ、露出した木製の梁が懐かしさを醸し出している。食堂の天井は高く、圧迫感がなく、ゆったりとした趣で、壁には貼り絵の共同作品が飾られ、ソファでは思い思いに新聞や本を読み、居心地よく過ごしていることが感じられた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	努力している。		

外部評価結果(グループホーム高尾)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫、努力している。	ベッドは事業所で準備したが、それ以外は全て利用者のご家族で思い思いの馴染みの品々を配置してあった。仏壇・テレビ・写真・飾り物・テディベアーのぬいぐるみなど利用者にとって今まで過ごしてきた日々と同じ暮らしが継続できるよう配慮された部屋作りが出来ていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	不十分である。		